

【様式】

令和6年度 学校マネジメントシート

学校名(名張高等学校)

1 目指す姿

(1)目指す学校の姿		校訓である「自律」「協調」「創造」の精神を活かし、地域とともに新時代の社会で活躍できる人材を輩出する学校
(2)	育みたい資質・能力(育みたい生徒の姿) 【グラデュエーション・ポリシー】	総合学科の系統的な学びをととして「自律」「協調」「創造」を体現できる力を身につけることを基本方針とし、「産業社会と人間」、「総合的な探究の時間」、「学習成果発表会」等の探究活動や表現・発表の機会を軸に置いた学習活動を推進する。 ・「自律」…大きく変化する社会の中で、自分の力を信じ、学び続ける姿勢 ・「協調」…社会のニーズを受け、仲間とともに目的に向かって協働する中で、それぞれの能力を発揮し、作り上げていく達成感を共有できる力 ・「創造」…自分たちの感性を形にし、表現・発表することの喜びを実感できる力
	ありたい教職員の姿	○ 生徒とともに ・信頼:生徒との信頼関係が構築できる。 ・授業:ICT を活用し、主体的・対話的で深い学びを意識した授業を中心に生徒の人間性と専門性を高めることができる。 ・相談:学習のつまずきや日頃の悩みに耳を傾け、粘り強い支援と指導ができる。 ○ 保護者・地域社会とともに ・信頼:保護者との信頼関係が構築できる。 ・連絡:日々の様子や変化を的確に共有できる。 ・情報:希望する進路実現ができるよう迅速な情報提供ができる。 ○ ワークライフバランスを意識した働き方ができる職場環境 会議の精選や業務の効率化などにより「働きやすい職場」を作ると同時に、自己の研修の還流等を図ることで「働きがいのある職場」を作る。

2 現状認識

(1)学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待	<生徒> 生徒アンケートの結果、生徒の約 30%が就職を希望し、約 40%が専門学校(看護系を含む)約 30%が四大・短大への進学を希望している。授業、学校行事、部活動を中心に教育活動のすべてに対する期待度が高い。 <保護者> 学校目標や教育目標への理解度が高い。多様なニーズに対応し、進路実現を可能にしてくれる学校になってほしいとの期待度が高い。近年では、資格取得への取り組みに加え、ICT 教育、消費者教育、主権者教育への期待度が高い。 <地域> 地域を支え、地域をリードする資質・能力を有する人材輩出への期待度が高い。また、一層活発な情報発信を求める声がある。	
	連携する相手からの要望・期待	連携する相手への要望・期待
(2)連携する相手と連携するうえでの要望・期待	<家庭> 安心・安全に学べる環境と校風 <地域> 信頼できる学校から、学ばせたい学校への進化、地域づくりのパートナーとしての役割 <就職先> 卒業生や勤務先の先輩からの期待を裏切らない人材の輩出 <進学先> 学び続ける力と志を備えた人材輩出	<家庭> 基本的生活習慣の確立、本校教育方針へのさらなる理解と協力 <地域> 学校と地域が協働した取組みの推進 地域教育力の発揮 <就職先> インターンシップ、進路講話への協力 継続した採用 <進学先> 高大連携授業、進路講話への協力

(3) 前年度の学校関係者評価など

○ 確かな学力の向上

多様な生徒の興味・関心・進路に対応した細やかなキャリア教育が展開されるとともに、総合学科の強みを活かしたカリキュラム・マネジメントがなされている。生徒に行った対象のアンケートでは、授業への「満足度」に対しては、学年平均で前期 92.1%・後期 97.3%が「○」と答えており、授業へ積極性に対しても、前期 96.4%・後期 95.9%の生徒が「○」と回答している。名張高校の授業・カリキュラムに対して生徒は高い満足度を示し、学びに向う高い力を引き出している。こうした数値は、前年度比でいずれも向上しており、1 年間の学修・教育活動の成果が表れた形になっている。

一方で「予習」に対して「○」と回答した生徒が、前期 67.7%・後期 75.2%であり、「復習」に対して「○」と回答した生徒は、前期 65.1%・後期 77.2%となっている。前年度に比べ数値は向上しているものの、家庭学習に対しての自己評価が低い生徒が一定数見られ、家庭学習への意識づけ・習慣づけ・適切な支援が、令和6年度の改善課題として挙げられる。

ICT の活用度を高めることが令和5年度の課題であったが、アンケートによれば、前期 91.1%・後期 97.3%の生徒が ICT 利活用に対し「○」を回答している。良好な結果が出ている。本年度得たこの「強み」を、今後活かしていった欲しい。

令和5年度は、新型コロナによる制限がほぼ撤廃されたこともあり、「輝け！じぶん未来探究ラボ」と銘打った「学習成果発表会」を開催した。これは、総合学科における生徒の学びを、生徒自らが振り返り、課題を明らかにし、より確かなものにするための素晴らしい取組であった。令和6年度は、この取り組みを継続した上で、生徒のさらなる「主体的で対話的な深い学び」につなげて欲しい。

カリキュラム上の各系列と、実際の生徒の進路の業種・職種との関係性をデータ的に明確化できれば、名張高校のカリキュラム経営とキャリア教育が生徒の「夢の実現」を後押ししている実態が明らかになり、名張高校で学ぶ喜びと意欲が喚起されるだろう。万一、系列の学習内容と進路の業種・職種が直結したものとして示せなくても、各系列の特色的な学習により、生徒が非認知能力を高めることができると考えられる。これについては、令和6年度の取組課題と位置付けて欲しい。

○ 豊かな心の育成

アンケートによれば、学校の「相談できる雰囲気」に「○」と回答した生徒が、前期 92.2%・後期 95.3%、学校の「安心感」に「○」とした生徒が前期 96.4%・後期 98.7%である。いずれも高い数値となっており、名張高校は生徒にとって安心して学べ、困難に直面してもそれを乗り越える環境が確保された学校であることが分かる。生徒に親身に寄り添った生徒支援がなされている。

一方で、「目的意識」に「○」と回答した生徒は前期 88.0%・後期 93.9%となっている。生徒の信頼度が極めて高い学校であり、その強みを活かして、学ぶことの大切さと楽しさを前面に打ち出した教科指導や、生徒個々の人生設計を見据えたキャリア教育等のさらなる充実をはかり、生徒に学びへの目的意識を持たせて欲しい。

○ 勤務時間の縮減

教職員の過重労働が指摘される。定時退校、部活動の計画的な休養日の設定等の取組を行った。部活動を社会体育に移行していく等の負担軽減策については、国の方針等も見定め、積極的に対応して欲しい。

○ 情報提供による信頼の構築

名張高校が発行する「NEWS LETTER」により、名張高校の優れた教育活動が、カラフルで見やすく、地域・社会にアピールされている。こうした広報活動の充実ぶりは、他校に類を見ない。その内容はすべてが生徒主体のものであり、生徒の学校内外での活躍が豊かに紹介されている。また、地域連携の取組を取り上げたもの

		も多い。名張高校生が参画するまちづくり、SDGS や先進的な主権者教育に関する情報発信がなされている。引き続き、家庭や地域、関係機関と連携し、充実した情報発信を行って欲しい。 ○ 教職員の資質向上 コンプライアンス研修を3回、人権研修を3回実施し、教職員の資質向上に努めた。令和6年度も継続して欲しい。
(4)現状と課題	教育活動	・Society5.0の世界で、周りの人と協働して、自分らしく生き生きと活動できる力を育成できるようカリキュラム・マネジメントを推進する必要がある。 ・アクティブラーニングの視点からの主体的・対話的で深い学びについて、具体的な目標を定め確実な取組を進める必要がある。 ・ICT の利活用については、研修等を通じて、教員一人ひとりのスキルを一層向上させていく必要がある。BYOD の本格導入を受け、学習端末としての利活用はいうまでもなく、学習効果の向上を目指した取組みの必要がある。 ・コロナ禍の影響もあり「挨拶の声が小さくなっている」と感じる職員の声がある。人間関係の第一歩である、挨拶について全職員が意識を高める必要がある。TPO に合わせた挨拶ができる学校文化の構築を目指す必要がある。
	学校運営等	・働き方改革について、具体的な目標を定め、確実な取組を進める必要がある。 ・学校広報誌の発行を定期的 to 実施し、更に細やかな情報発信を行うとともに、地域からの一層の信頼を高めていく必要がある。

3 中長期的な重点目標

教育活動 【カリキュラム・ポリシー】	生徒の自主的・自発的な学びの継続ができるよう、教職員は人権教育を柱とした安心して学べる学習環境を整える。その上で、生徒の規範意識をさらに高め、自己肯定感・自己有用感の醸成を目指し、粘り強い指導と支援を行う。また、豊かな心を育成するため、地域社会の一員としての自覚を促し、地域の活性化や社会貢献に向けての意欲を育む教育課程を実施し、向上心を持って自身の夢や目標の実現に向け、努力することができる資質を育てる。 さらに、BYOD を活用した主体的かつ対話的な学びや授業改善を進め、「わかる授業」と「将来につながる授業」を行う。生徒の進路実現に向けては、地域連携を土台としたキャリア教育の一層の充実化を目指す。
学校運営等	総勤務時間の縮減 ① 会議を精選し、会議時間を縮減する。 ・各議事の時間を設定することで会議時間を短縮する。 ・各種委員会での議論を深め、改善案を提案し、改善策を実行に移す。 ・空き時間は教材研究に集中できる組織風土を育てる。 ② 各分掌・各学年がそれぞれにおいて責任を果たすことで「働きがい」のある名張高校を目指す。

4 求める生徒像

入学時に期待される生徒の姿 【アドミッション・ポリシー】	(総合的観点) ○ 学校生活 本校の教育活動全般に対して強い興味・関心をもち、入学後、積極的・意欲的に学校生活を送る意志のある者 (個別観点) ○ 学習について 国語、地理歴史、公民、数学、理科、英語、芸術、保健体育、商業、情報、家庭等の各教科に強い関心をもち、得意分野の学習活動に意欲的に取り組む者 ○ スポーツ・文化活動等について
--	--

	スポーツ・文化活動等に積極的に取り組んでおり、入学後もその活動を継続して行う意志のある者 ○ 地域活動・人権活動等について 地域活動や生徒会活動、学級活動、ボランティア活動または人権活動等に積極的に取り組める者 ○ 進路について 将来、地域社会の一員として地域の活性化や社会貢献をする意欲をもち、向上心をもって自分の夢や目標の実現に努力する者
--	--

5 本年度の行動計画と評価

(1)教育活動

教育活動に関する項目は、児童生徒を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「教育課程・学習指導」「キャリア教育(進路指導)」「生徒指導」「保健管理」など

また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
確かな学力の向上	(1)授業改善 【活動指標】 生徒による授業評価を2回(7月、12月)実施する。 【成果指標】「ICTを活用した授業が効果的に行われている」に「そう思う」「ややそう思う」と回答した生徒の割合90%以上	(1) 【活動指標】 生徒による授業評価を2回実施し、教科担当者が振り返った。 【成果指標】 そう思う＋ややそう思うの数値が、全学年で90%を超え、達成した。	
豊かな心の育成	(2)基本的な生活習慣の定着と確立 【活動指標】 学年通信等での提示、SHR・LHR での指導 学年集会での指導等 【成果指標①】 生徒満足調査において、「学校での指導が基本的な生活習慣の定着に役立っている」の問いに、「そうである」「ややそうである」と回答した生徒の割合95%以上 【活動指標】 挨拶に関するアンケート(生徒、教員)を6月、11月、2月に行う。 【成果指標②】「4月に比べて挨拶ができるようになった」と回答する教員の割合が100%、「挨拶がなぜ大切か言葉で説明できる」「自信はないができる」と答える生徒が90%以上 (3)安全・安心教育 【活動指標】 生徒支援部(生徒指導係・保健係)、人権教育、学年による講演・指導等	(2) 【活動指標】 あいさつについて学年通信等での指導は勿論、毎月全職員にポスターを配布しHR・授業で指導を行った。 【成果指標①】 そうである＋ややそうであるの数値は90%と目標を下回った。 【成果指標②】 教員の数値は90% 生徒の数値は96% (3) 【活動指標】 人権LHRおよび講話、講演による指導を計画的に行った。	

	【成果指標】 生徒満足度調査において「健康と安全について、適切な指導が行われていますか」の問いに、行われていると回答した生徒の割合 95% 「命や人権を大切にする指導が適切に行われていますか」の問いに、行われていると回答した生徒の割合 95% (4)意欲の育成 【活動指標】 進路実現に向けた進路指導部・学年による指導等 【成果指標】 生徒満足度調査において、「生徒の進路実現に向けて効果的な指導を行っていますか」の問いに、行っていると回答した生徒の割合 95%	【成果指標】 「そうである」「ややそうである」の数値が94%で目標を下回った。 「そうである」「ややそうである」の数値が95%で目標を達成した。 【活動指標】 進路指導部、学年による指導により就職・進学を希望した生徒は全員進路を決定することができた。 【成果指標】 「そうである」「ややそうである」の数値が96%で目標を達成した。	
--	--	--	--

改善課題

- (1) 全教科において授業アンケートを実施することで、授業を生徒の満足度から振り返ることができた。次年度は授業の質の向上を目的に、「自己肯定感を高めることができる授業づくり」を学校として目指したい。
また「地域連携」「探究活動」をより推し進めて、新しい時代に必要な力(コミュニケーション力、主体性、チャレンジ精神)を育むことができる総合学科をつくっていく。
- (2) あいさつに関する取り組みについては、次年度も継続する。授業、集会等の最初と最後のあいさつを丁寧に指導していく。本校の授業で掲げている「あいさつと静寂を」を全職員が再認識し、規律とメリハリのある授業を目指す。
- (3) 健康や安全について数値が達成できなかったが、紙一重の数値である。来年度は数値達成を目指し、特に持ち物の管理の徹底を進めたい。
- (4) 進路指導については系列・専攻の学びを活かした就職先について開拓する必要がある。それに加え、どのような進路を目指して系列・専攻の学びを進めていくのか学校として整理を進める。進路指導には高い満足度を得ることができているが、卒業生には進学も就職も希望しない生徒が7名出た事実もある。よりきめ細やかな指導を心がけてこの数値を0に近づけていきたい。

(2)学校運営等

学校運営等に関する項目は、教職員や施設等を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「組織運営」「研修(資質向上の取組)」「情報提供」「保護者・地域住民等との連携」など

また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
総勤務時間の縮減	(1)働きやすい職場環境の構築 【活動指標】 ・設定した日の定時に退校できた教職員の割合 80%以上 ・予定通り休養日を実施できた部活動の割合 100% ・放課後開催の会議が60分以内に終了した割合 95%以上 【成果指標】 ・年360時間を超える時間外労働者数 0人 ・月45時間を超える時間外労働者の延べ人数 0人 ・1人当たりの月平均時間外労働30時間以下	(1) 【活動指標】 定時退校できた職員の割合は84% 達成 予定通り休養日を設定できた部活動の割合は100% 達成 放課後の会議が60分以内に終了した割合は85% 未達成 【成果指標】 年360時間を超える、時間外労働者数 19人 月45時間を超える、時間外労働者の延べ人数 74人 1人当たりの月平均時間外労働時間 23時間	
情報提供による信頼の構築	(2)ホームページ・学校広報誌等による情報提供 【活動指標】 ・ホームページの刷新 ・中学3年生とその保護者及び地域を対象とした学校広報誌の発行 年5回以上 ・報道機関への資料提供 年7回以上	(2) 【活動指標】 ホームページ刷新済。ニュースレターの発行は年5回達成。報道機関への資料提供10回達成。	
教職員の資質向上	(3)コンプライアンス研修 【活動指標】 校内研修 年3回以上 (4)教員対象 人権研修 【活動指標】 校内研修 年3回以上	(3) 【活動指標】 7月、10月、12月実施。達成。 (4) 【活動指標】 4月、5月、7月、8月実施。達成。	

改善課題	
・時間外労働時間の大幅な短縮、改善には至らなかった。次年度以降も引き続き、働き方改革を推進させたい。	・情報誌(NEWS LETTER)については、定期的に発行し、中学校や関係機関へ配布することができた。広報活動の一層の充実化を目指しホームページの刷新、インスタグラムの開設を実施した。
	・コンプライアンス、アンガーマネジメント等、教員研修の充実化を図った。次年度も教員の資質向上に向け、一層積極的に取り組む必要がある。

6 学校関係者評価

明らかにした改善課題と次への取組方向	○確かな学力の向上 「初等中等教育における教育課程の基準等の在り方について(令和6年12月25日中央教育審議会諮問)」によると、顕在化している課題として、「学ぶ意義を十分に感じだせず、主体的に学びに向かうことができない子どもの増加」「子供の社会参画の意識、将来の夢を持つ子供の割合等についても、改善傾向も見られるものの国際的に見て低い状況」が指摘されている。名張高校では、全日制においては総合学科の特徴を生かして、定時制では少人数クラスで個々の生徒の学びを支える学習活動を通して、また地域との連携した様々な活動によって、生徒は「学ぶ意義」を感じることができ、「本物の学び」を経験できている。このことは確かな学力を身につける原動力となっていると思われる。生徒や教職員が名張高校の学びの素晴らしさに気付くためにも、名張高校の生徒アンケートの数値の変化にだけ着目するのではなく、内閣府の「我が国と諸外国のこどもと若者の意識に関する調査(令和5年度)」の調査項目と比較するなど、名張高校ならではの教育の成果がより見えてくる手法を取り入れてもよいのではないか。 アンケートでは「授業に積極的に参加できている」という問いに対して、「そうである／ややそうである」が各学年とも高い割合となっている。この割合をさらに増やすためには、少数の「あまりそうではない／そうではない」という否定的な回答の原因を分析することが必要ではないか。それによって、教師の授業改善につながると考えられるのではないか。
	○豊かな心の育成 「挨拶がなぜ大切なのか言葉で説明できる」というアンケート調査の項目で、3年生の2月には「できない」と回答する生徒はいなくなり、他の学年も多くの生徒が「できる／できるが自信はない」と回答している。教師が「挨拶をしよう」と単に呼びかけるのではなく、「挨拶がなぜ大切なのか」を生徒らに考えさせる取組は、形式的な挨拶ではなく、相手に対する心からの挨拶を身につけることができるのではないか。次年度も継続して取り組み、生徒全員が挨拶の大切さを自分の言葉で説明出来るようになることを期待したい。
	○総勤務時間の削減 働きやすい職場環境の構築に向けて定時退勤日の設定、部活動の休養日の設定、会議を60分以内に終了する等、具体的な数値目標を掲げ、組織的に取り組んでいることは大いに評価出来る。しかし、年360時間を超える時間外労働者数が19人、月45時間を超える時間外労働者の延べ人数が74人と当初の目標を下回っている。この原因として、一部の分掌や教職員に業務負担が偏っていることが推察できる。学校業務全体を見直し、業務の効率化を図るとともに、適正な人員配置を行うことで、時間外労働時間の縮減が可能になるのではないか。
	○情報提供による信頼の構築 中学3年生とその保護者や地域に向けた学校広報誌の発行が年5回にも及んでおり、そのことが、名張高校への地域の信頼構築や「高校生活入門講座」の参加者の増加

	につながっているのではないかと。しかしながら、よりよい学校広報誌の制作や各方面への配布は先生方の大きな労力の賜と思われる。業務改善と広報誌がもたらす効果のバランスを考えながら、名張高校の教育活動とその成果の発信を引き続き行っていただきたい。 ○教職員の資質向上 コンプライアンス研修、人権研修が計画的に実施されていることは評価出来る。研修が形骸化しないためにも、内容や形式を毎年工夫されたい。
--	--

7 次年度に向けた改善策

教育活動についての改善策	授業を生徒の満足度から振り返ることができた。次年度は授業の質の向上を目的に、「自己肯定感を高めることができる授業づくり」を学校として目指したい。 また「地域連携」「探究活動」をより推し進めて、新しい時代に必要な力(コミュニケーション力、主体性、チャレンジ精神)を育むことができる総合学科をつくっていく。 あいさつに関する取り組みについては、次年度も継続する。授業、集会等の最初と最後のあいさつを丁寧に指導していく。本校の授業で掲げている「あいさつと静寂を」を全職員が再認識し、規律とメリハリのある授業を目指す。 進路指導については系列・専攻の学びを活かした就職先について開拓する必要がある。それに加え、どのような進路を目指して系列・専攻の学びを進めていくのか学校として整理を進める。進路指導には高い満足度を得ることができているが、卒業生には進学も就職も希望しない生徒が7名出た事実もある。よりきめ細やかな指導を心がけてこの数値を0に近づけていきたい。
学校運営についての改善策	働き方改革の推進にあたっては、引き続き、具体的な指標を定めるとともに、思い切った取り組みを実施していく必要がある。ワーク・ライフ・バランスに資する研修等を実施し、職員のメンタルヘルスの維持に繋げたい。 広報活動を一層充実させ、総合学科としての取り組みを地域連携、地域協働の中から展開していきたい。また、主権者教育や消費者教育等における外部教育力の活用についても、引き続き、積極的に取り組んでいきたい。